

伊野の将来を考える小グループをつくらう

六〇人余が現状と課題について話し合い



▲各グループの発表を聞く参加者

十年後の伊野を楽しく暮らしやすい地域にするため、小さなトーキング・グループをたくさんつくって皆で考えようと、伊野地区自治協会の呼びかけで7月28日に開催された第1回まちづくりフォーラムに60人余の住民が集まって活発な話し合いが行われた。

農業や教育など一〇のグループに分かれて話し合いが行われ、具体的な活動に踏み出すグループも生まれた。伊野の大学生4人を含む若い世代や女性二十二人の参加があったことは今後のまちづくりを加速させることになるものと期待される。

私はこんなテーマで話し合いたい

進行役は島根県中山間地域研究センターの中山義規さん。
最初に、どんなテーマで話し合いたい、発言を求めたところ、十一人から次のようなテーマが提案された。

「教育」「福祉・生活機能」「伊野の暮らし」「IUターン」「草刈」「情報発信」「国際交流」「交流人口・関係人口」「仕事・産業」「結婚」「農業」。発言者のうち三人は一〇代、二〇代の若者。
参加者は関心のあるテーマを選び、小グループに分かれて課題や解決策について話し合った。話し合いの内容を発表し合う場面では、共感の拍手や笑いに包まれた。「いろんな意見が出ることにビックリ。熱がすごい」と川瀬貴弘さん(学生)。

若者はどう感じたか

各グループの関連性を大事に

様々な年代の方と話す機会は貴重な時間です。色々な意見や想いを聞くことができました。

私たちのグループの話し合い(IUターン)を終えて感じたのは、他のグループと関連する部分が多いということです。たとえば「IUターンと教育」「IUターンと農業」「国際交流と教育やIUターン」など。そういった観点で考えると小グループでまとまるだけでなく他グループを含めた広がりのある話し合いが出来たら良いのではないかと思います。

今日の話し合いで豊かな自然や農業、その中で出来る教育、また教育の体制など様々な魅力を改めて感じました。それらをより良い形で発信していくために、役職や行事参加などの負担についても、今後それを担う世代(10~40代くらい)が考えていけるようにすることが同世代の移住者を呼ぶ上でも重要ではないかと思います。

松本善幸(20代)

話し合いを重ね、行動に

用意されていた椅子では足りないほどの人数に驚きました。たくさんの方が前に出て「こんなことについて話しましょう」とおっしゃっていたのを見て、真剣に伊野の将来を考えている人がこんなにもいたんだと、なぜか嬉しい気持ちになりました。

本当に10年後の伊野を今よりも「良い方向」に変えるためには、ここだけで終わらすのではなく、行動・実現することが重要だと思います。そのためには、1回だけの話し合いや短い時間で答えを出すことは難しいでしょう。こういった話し合いの場を重ねるうちに、つながりや結果が見えてくるのではないかと思います。

(20代青年)

見えていなかった伊野

私が思っていた以上に伊野には良いところもあれば課題もあることがわかりました。

ふだんの生活では同世代の人とのかかわりしかないため、自分の視野が狭くなりがちですが、今回、伊野の多くの人たちとかがかわることができ、自分に見えていなかった伊野を知ることができました。

教育学部で学んでいるので教育グループに参加しました。保護者の方、地域の方の考えを聞いて学ぶことが多かったです。また、自分の考えを伝えることもできて、とても有意義な時間でした。

原田菜月(10代)



▲農業グループの話し合い

「伊野ちよんぼし市」を開催したい 高齢者宅訪問活動をしたい

農業グループでは家庭菜園の余り物を効果的に販売するため、軽トラを使って「ちよんぼし市」開催に挑戦することにになり、8月9日、メンバーが集まり、具体策を検討した。「楽しくやるのが大事」と竹内良子さんは意欲を燃やしている。福祉・生活機能グループも、8月1日、メンバー9人が集まり、昼間独居世帯の訪問、地元

新たな一歩に挑戦

動き出すグループ

プも、8月1日、メンバー9人が集まり、昼間独居世帯の訪問、地元

よその人は伊野をどう見ているのだろうか

海潮地区視察団の感想

あの封建的な伊野が...

日用品のセールスで湖北地域をまわっていた四〇年あまり前、伊野は閉鎖的でどちらかと言えば貧しい地域でした。かなり消極的で封建的であった伊野地区の現在のありようは、信じがたい光景です。

伊野の様々な事業には感心しましたが、後継者が育つかどうか、今後の課題でしょう。心配なのは、家計を支える手段が海潮地区と同じで、外で収入を得なければ立ち行かない地区だということです。

地域・学校連携

学校存続のために何をなすべきか、地域が衰退していくのを防ぐために何をなすべきかを地域をあげて取り組まれている姿をひしひしと感じた。地域と学校の連携について、海潮でも学校の現状を把握し保護者の意見や思いをしっかりと聞き、何に困っているかを把握する必要があると思った。

注目を集める伊野のまちづくり 伊野から学ぼう 視察相次ぐ

- 〈今年度〉
 - 雲南市海潮地区振興会のメンバー五〇名が6月23日(土)、伊野を視察。
 - 隠岐の島町小原田地区自治会の役員ら十一人が8月5日、伊野を視察。
 - 奥出雲町布勢地区で、8月21日、多久和自治協会長が講演。
 - 〈昨年度〉
 - 安来市井尻地区のみなさんが視察。
 - 出雲市出東コミセンで多久和自治会長が講演。

伊野まちづくり ニュース 2号

2018年8月10日

発行 伊野地区自治協会

商店の役割検討、災害時支援について話し合った。今後も話し合いを継続し、具体的な活動を模索していくことになった。

グループ討論 課題と提案

結婚

昔は青年団があり、そこで知り合って結婚した人もいたが、今はそれもない。結婚は面倒くさいと言っている。親としてはとても心配である。どうすれば良いか？

- ・最初から婚活パーティーには出にくい。
- ・先輩や友人の誘い、世話やきさんの存在も大事。
- ・若い人が交流する場面をつくる。(バーベキューなど)
- ・芸能や神楽でつないでいっても良いのではないか。

国際交流・関係人口拡大

伊野を知ってもらい伊野ファン拡大のために

- ・伊野とつながる人や場所を増やす。
- ・空き家を活用して外国人対象の田舎留学
- ・ねこまんま全国大会
- ・伊野の地形を活かした自転車レース開催。
- ・伊野を舞台に映画・ドラマを制作。

イタリアとの交流

- ・伊野の「伊」はイタリアを表す。地形も似ているのでイタリアとの交流。石窯を作り、ピザで交流する。
- ・伊野でイタリア野菜を作る。

関係人口を増やすために

- ・いろいろな取組が行われているが住民には伝わっていない。かえって地区外の人から「伊野は頑張ってるね」声をかけられる。
- ・伊野TVを開局したらどうか。



・発信したものの勝ち。
・ツイッターは有名人ツール。
・フェイスブックは人。イン스타그램は事柄が中心。

情報発信

伊野が日本でベスト10に入るぐらい有名にしたい、との思いで話し合いが行われた。そのために・・・

- ・発信方法の勉強会を開く
- ・一人で発信するのではなく、みんなで(大勢で)発信する。
- ・まずは、伊野につながるのがある人。
- ・伊野の情報を発信するアカウントが各発信をフォローしていく。

草刈

危険な場所での草刈を無くしたい。今後、草刈をする人が減る。

<対策>

- ・岩だれ草は年2回ですむ。
- ・センチビートグラスは業者対応。
- ・ヤギはかなり効果的(ソーラー発電所の例)

UIターン促進・定住対策

UIターンを実現するためには、グリーンツーリズム(農業体験)などを通して伊野に来てもらい、伊野を知ってもらうことが大切。そのための課題は・・・

- ・若者が住みやすい環境整備。
- ・伊野地区の役職はふるいにかける。
- ・空き家改修。
- ・IUターンのカギは小学校の存在。

福祉・生活機能

<困っていること>

- ・介護、安否確認、連絡体制
- ・医療器具をつけているので、災害時、避難はできない。
- ・通院、買い物
- ・運転免許返上の生活
- <何ができるか>
- ・独居世帯の訪問
- ・高齢者の楽しみづくり(替え歌等)・訪問販売
- ・地本商店は買い物だけでなく、交流、情報交換など様々な役割を果たしている。地域の支援体制が必要。
- ・通院を手助けするボランティアグループができないか。

まちづくり推進組織

様々な企画を実行するグループを支援する企画実行部隊が必要であるという観点から・・・

- ・計画は生の声をいかす。特に女性の意見が大切。それを皆で支えていく体制をつくる。
- ・計画ができたらずまずやってみる。そして検証・見直しを行う。
- ・PDCAサイクルで管理する。
- ・10年後を目標とするならば、5年後に中間報告を行い、見直しをかける。
- ・計画実行のために資金が必要ならば、どうやって調達するか。

様々な視点から教育を考える

大学生になり、伊野バージョンなどを通して伊野地区に関わる機会が増える中、自分が住んでいる伊野地区はどんなところだろうと気になり、参加させていただきました。

実際に参加してみると、自分とは違う視点から伊野を見た発言が多く、新しい発見がたくさんありました。

私は教育学部であるということもあり、教育グループに参加させていただきました。「地域の方から見た伊野の教育」「保護者の方から見た伊野の教育」「学生から見た伊野の教育」、それぞれに特徴があり、学ぶことがたくさんありました。

「10年後の伊野」のために、伊野の良いところや課題に目を向けることができる充実した時間でした。今後も積極的に参加したいと思います。

原田 奈央



教育グループの発表

発言メモ(抜粋)

- ・複式学級は不安だったが、子どもにとっては良かった。自分で考えるようになったし、発言もできるようになり、学力がついた。
- ・児童館はだれでも利用でき、しかも無料。
- ・「高校受験勉強会は伊野だけだよ」と他地区の人に言われた。
- ・伊野バージョンはとても魅力的。
- ・伊野の教育の魅力を伝える方法を考える。
- ・小さい学校は体育・スポーツに困る。

農業

<現状>

田畑の維持ができない。草刈が大変。竹林の拡大。家周辺の木を伐採できない。イノシシなど有害鳥獣対策が大変。

<伊野の特産品を考える>

- ・漬物 ・乾燥野菜 ・エゴマ

<すぐにできること>

- ・家庭菜園の余り物や規格外野菜をだれでも気軽に出せる「伊野ちゃんぼし市」市を開催し、高齢農業者の販売機会を増やす。

<その他>

- ・野菜作りのノウハウを学ぶ ネット販売
- ・地産地消 ・田畑の貸出し農園
- ・規格外野菜の活用→漬物など

伊野で暮らし隊

伊野で暮らしたいが問題山積。

- ・町内によって戸数や負担に違いがある。
- ・町内合併するにしても、それぞれの資産処分など難しい問題がある。
- ・高齢者だけの世帯が増え、支援や配慮が必要。
- ・神社やお寺の存続も様々な困難がある。
- ・生活バス路線の改善。
- ・壮年会は自分たちが楽しめるような活動をやる。

第2回まちづくりフォーラム(伊野の将来を考える集い)
10月7日(日) 午前9時半～11時半 伊野コミセン